

## 鉄の歴史館を訪ねて

遠藤 祐二

Yuji ENDO

昨年の10月末 新釜石鉱山を訪れた際 その年7月に開館したばかりの鉄の歴史館の話を聞いた。一見の価値ありと思い 帰路の訪館を予定した。

10月31日 前夜の雨はまったく去り 抜けるように晴れ上った晩秋の空をバックに 鉱山街をとり囲む山肌を覆う紅葉が朝日に映えて炎え立っている。案内の勞をかけて出て頂いた新釜石鉱山の黒崎尚武採鉱部長が運転する車は 甲子川の溪沿いに国道 283 号線を一路釜石の中心街へと下る。

路が平坦になりかかるあたりから 右手前方に五葉山のドッシリとした山塊が望まれてくる。

およそ20年前 卒論の調査で現在の三陸村越喜来周辺に入っていた筆者には 思い出深い山である。五葉山岩体として著名な全山酸性深成岩からなるこの山は 標高はさほどでもなく (1341m) どちらかといえば鈍重な山容は 山登りの対象としてはあまり食欲をそそられるものではない。しかし その山頂からの眺望はすばらしい。リアス海岸特有の海に突き出した半島の連なりとその間に抱かれた内湾の表情にはそれぞれの個性がありはるかに広がる太平洋との対照は 陸中海岸随一の展望台といえるであろう。

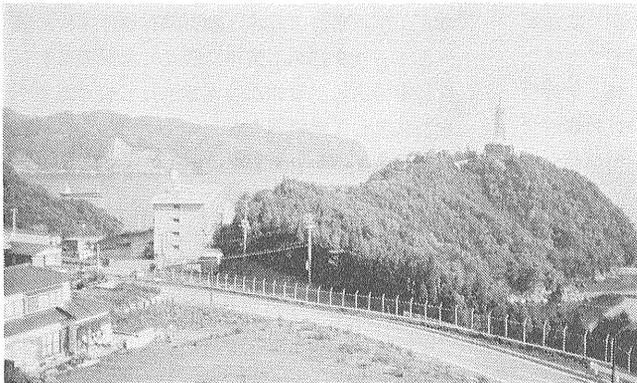
釜石の街並が見えてくるあたりで 右手に新日鉄釜石ラグビー部のグラウンドが見える。日本選手権7連覇中(今年の正月でストップ)の炎のジャージの姿は見えなかったが 昔ながらの鉄の街に加えて 特に現代の若者達の間にはラグビー日本一の街としての釜石を印象づけた功績は大きい。

釜石駅前を過ぎ 国道45号線へ右折すると まもなく純白の巨大な観音像が左手に現れる。釜石港に突き出した鎌崎の上に立つ48.5mの立像で 昭和45年にできた釜石の新名所とのことである。鎌崎は江戸時代に砲台のあったところだそうで 跡地に観音像とはまさにオジャカサマでも……のたぐいで 平和日本のシンボルともいえようか。

大分道草を食ってしまったが 観音の横を抜けて左折大平団地を登り切ったところが 目的の鉄の歴史館である。車 100 台は裕にパークできそうな広い駐車場からは釜石港が一望でき 先刻の釜石大観音の後姿が 青い海と緑の半島を背景に クッキリと浮き立っている。山側には ま新しい墓地公園が拓かれ 鉄の歴史館を中心とするこの一帯を 市民の新しい憩いの場所に造成しようとする釜石市の意図がくみとれる。

黒崎部長の紹介で 昆勇郎館長にお目にかかり 館設立の経緯などについてお話をうかがう。昆館長は前職の釜石市立図書館長時代から釜石市と鉄とのかわりについての研究が深く 鉄の歴史館創設の中心となって活躍された方である。初対面の失礼もかえりみずに 鉄の歴史館の紹介を地質=ユースにお寄せ願えませんかと申し出たところ 快くお引受け頂いた。

以来3ヶ月 このほど昆館長からの原稿を拝受した。一読して郷土の鉄の歴史にかけた館長の永年の研究の深さに敬服させられた。歴史館展示の紹介も詳述されており この上筆者の拙い見学記は無用であろう。御寄稿頂くに至った経過を述べて 昆館長の御高著への前書きとするにとどめる。ご多忙中をさいて貴重な原稿を



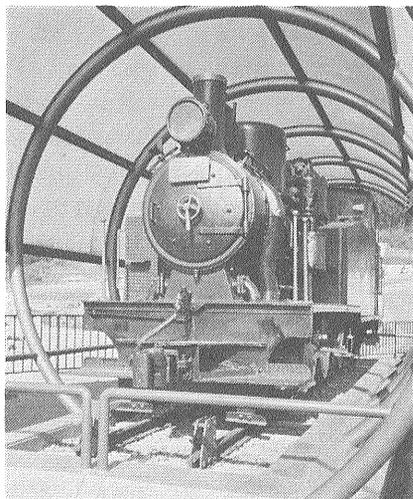
釜石大観音と釜石港（歴史館からの展望）



昆館長（左上）と黒崎部長（歴史館内喫茶室）

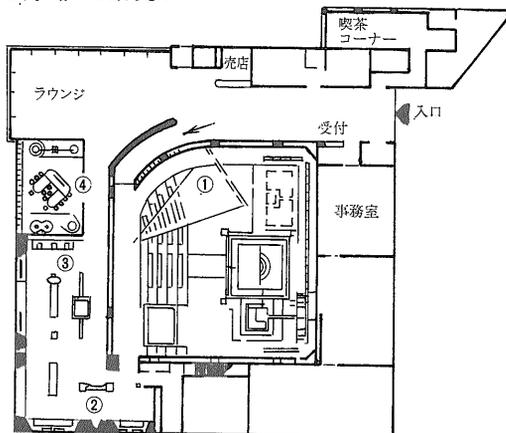
お寄せ頂いた昆館長に改めて御礼を申し上げますと共に  
得がたい機会をお与え下さった黒崎部長にも心からの謝  
意を表する次第である。

なお 昆館長は本年3月31日付をもって釜石市役所を  
勇退され 現在市制50周年記念事業にかかわっておられ  
る。



社線汽関車（P.43参照）

●展示場のご案内



●展示構成

①総合演出シアター

橋野三番高炉原寸大模型（上屋高さ14.6m）・マルチイメージスクリーン（6m×  
4m 1面）・イメージビデオ（灼熱の鉄塊のイメージ映像）・釜石鉄山模型（1/30  
00地形模型）・現代の高炉模型（釜石製鉄所一番高炉1/70）

②大島高任コーナー

高任の蔵書印・陣笠・拝領した刀剣・各種古文書・書翰・絵図・絵巻物・高任ビデオ  
（高任の人物像とその足跡を紹介）・高炉絵巻

③釜石と鉄コーナー

たたら模型・古代鍛冶絵図・山砂鉄・餅鉄・鉄銭・高品位磁鉄鉱・現代の製鉄製品・  
くらしの中の鉄製品・大橋鉱山解説図・釜石周辺の地形模型（1/25,000）

④鉄と遊ぶコーナー

マグネットメイズ・スチールドラム・ハースプリング・ジャイアントテンピン  
・鉄のおもちゃ・鉄に関する書籍

⑤館外展示品

釜石製鉄所社線のSL・高品位磁鉄鉱の鉱塊・シンボルオブジェ

■施設概要

敷地面積／歴史館：鉄筋コンクリート平屋建1,245㎡・総合演出シアター・展示  
室・鉄と遊ぶコーナー・ラウンジ・売店・軽喫茶コーナー  
駐車場／大型バス 15台・普通車75台

■利用案内

開館時間／午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まで）  
休館日／12月28日～1月4日

■入館料

	個人	団体（20名様以上）
小・中 学 生	100円	1人につき 50円
高 校 生	200円	1人につき 100円
一 般	300円	1人につき 200円

※市内ホテル・旅館へご宿泊の方はお1人でも団体料金で入館できます。

■交通案内

●国鉄釜石駅よりバスで7分観音入口下車（徒歩3分）

●三陸鉄道平田駅よりタクシーで約5分

〒026 岩手県釜石市大平町3丁目12番7号 ☎0193-24-2211

鉄の歴史館パンフレットより